

Indigo

開発中の車両で、簡単・便利に故障診断

Indigoとは

Indigoは、診断プロトコルの知識がなくても簡単に設定できる、直観的な使用が可能な診断テスターです。Indigoは車両の開発とサービス工場での使用の両方に適しています。簡単な操作で車両全体の状態を一覧で確認できるのに加え、個別のECUの詳細な診断通信にも対応しています。目的に応じたいくつものテスター設定を定義し、プロジェクトとして保存して、パートナーと安全に交換できます。Indigo Remoteを使用したリモート診断も可能です。

機能概要

- > すべての自動車メーカーや車種に適用できるだけでなく、(商用車も含む)車両全体および個別のECUの診断に最適
- > カスタマイズ可能なユーザーインターフェイスで、個々のアプリケーションに応じたプロジェクトを自由に定義可能
- > 車両の状況や識別情報などが直感的に分かるようになっていくだけでなく、よく使われる各種の診断タスク(フォールトメモリーの読み出しなど)を用意しておき簡単に利用
- > UDS, KWP2000, GMW3110, SAE J1939診断とOBDを同時にサポート
- > ODX, CANdela (CDD), Ford MDXなどの診断仕様データベースによる自動設定
- > CAN (FD), K-Line, DoIPを介した異なる車両アクセスを同時にサポート
- > Indigo Remoteでインタラクティブにリモート診断

バージョン6の主な特長

診断シーケンスのプロフェッショナルな開発

- > Indigoだけでなく他のベクターツールで利用可能な診断シーケンスを開発およびテストするためのMicrosoft Visual Studio用の機能拡張を製品に同梱。診断シーケンスの快適な編集、容易なテスト、デバッグの最適なサポートなどのメリットを提供

セキュリティー対応

- > ベクターセキュリティーマネージャーの統合。ベクターセキュリティーマネージャーを通じ、ゲートウェイ認証をはじめとするメーカー固有のセキュリティー機能を提供

テストの自動化

- > 標準化されたASAM XIL API DiagPort 2.1のサポートにより、診断タスクの自動化に対応

Routine Control Center

- > Routine Control Centerを使用してリモートルーチン(UDSサービス0x31)の実行の開始/停止とルーチン結果の照会が可能

その他の新機能

- > 車両とのDoIP通信にベクターのEthernetネットワークインターフェイス、VN5610AおよびVN5640をサポート
- > 記録したLiveDataシグナルを標準化されたASAM MDF4形式でも保存可能



車両情報の確認:車載ECUについての一般的な情報をWindowsタブレットコンピューター上のIndigoで取得

機能

- > **DTCオーディター**: 車両全体のECUについて、故障を検出しているか否かを一覧表示
- > **DTCブラウザー**: 故障を検出したDTCについて、各ステータスビットの状態とフリーズフレームデータ、故障判定条件を表示
- > **DTCインスペクター**: サポートされるすべてのDTCをハイライトし、「アクティブ」のマークを付けて概要を表示
- > **IDブラウザー**: シリアルナンバー、ECUバージョン、VINなどのECUについての情報を収集
- > **パラメーター設定**: ECU内部のパラメーターを読み出して表示、書き換え
- > **ライブデータ**: 診断パラメーターおよびCANシグナルを測定し、それらをグラフィカルに表示
- > **トレース**: 送受信した診断メッセージを表示 (診断データの解釈を含む) - 診断用に最適化
- > **IOコントロールセンター**: アクチュエーターを簡単に制御
- > **Routine Control Center**: リモートルーチン(UDSサービス0x31)の実行の開始/停止とルーチン結果の照会が可能
- > **診断コンソール**: ECUが対応するすべての診断サービスを、手動で実行可能
- > **フラッシュ**: vFlash Pack&Goプロジェクトに基づいたECUのリプログラミング
- > **スクリプト機能**: 繰り返し実行する診断シーケンスをvFlashのCustom Actionとしても利用できるスクリプトとして生成し、実行。このC#のスクリプトはベクター製品のすべての診断テスター機能で再利用可能
- > **OBD II/WWH-OBD/HD-OB**: OBDの診断データを読み出して表示。OBD-IIとWWH-OBDの両方の仕様に自動対応
- > **Indigo Remote機能**: 遠隔地の車両に対して診断を可能にするIndigo Remote機能。距離に関係なく、解析と問題解決を効率よく実施。すべての内部データは診断を実行しているPC内に安全に格納され、車両に転送されることはありません

適用分野

Indigoは、ECUの開発や初期設定、電子制御システムの保守作業を行うのに最適です。実車両でのECUの統合や、故障診断にも役立ちます。Indigoは、面倒な通信手順を内部で処理し、ユーザーには診断の機能やデータだけを提示するため、通信や診断のプロトコルを知らないユーザーでも簡単・便利に診断機能を利用できる、高い操作性を持つツールです。

Indigoは、個々のECUの診断機能に加えて、システム全体あるいは車両全体にまたがるデータを一つのWindowにまとめて表示する機能を備えています。またIndigoには、「設定モード」と「診断モード」の二つの動作モードがあります。また、必要なユーザー操作を減らすことにより、テスト車両の走行中の診断作業にも最適です。取得したデータは、見易いレポートとして保存でき、後日の解析に役立てたり、試験記録として残したりできます。

Indigoは、設定を「秘匿形式」で保存することもできます。この場合、設定データや診断仕様は暗号化して保存され、内容を見ることも変更することもできません。あらかじめ用意された診断機能を利用することだけが可能です。一部の診断機能を利用させるだけで、それ以外の診断機能も診断仕様も秘匿できますので、設定ファイルを部外に配布するのに便利です。

対応インターフェイス

- > ベクターハードウェア:
 - VN16xx (USB)、VN5610A、VN5640、VN8950、VN8970、VN8810、VX1131/VX1132、CANcardXL (PCMCIA)、CANcardXLe (ExpressCard)、CANboardXL (PCI、PCIe、pxi)
- > PassThruデバイス: J2534ハードウェア、Ford VCM-I/VCM-II、GM MDI、GM Peak Dongle
- > ISO 22900-2に基づくD-PDU APIデバイス

Indigoの詳細:

www.vector.com/jp/ja/products/products-a-z/software/indigo/

